

# 高等部就業技術科

## 高等部就業技術科の教育課程

### 就業技術科の教育目標

企業就労に必要な基本的な資質・能力を養い、地域社会の中で自立し、生涯にわたって心豊かに生きていく人間を育成する。

- ア 健康で、豊かな心と丈夫な体を養う。
- イ 自ら学び、自ら考え、主体的に行動する力を育てる。
- ウ 勤労意欲を高め、企業就労に必要な基本的な知識・技能・態度を養う。
- エ 豊かな情操を育み、社会性や規範意識を養う。
- オ 社会の一員としての自覚を育て、地域社会に貢献しようとする意欲や態度を養う。

### 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ア 就業技術科では、生徒全員の企業就労に向けて専門的な職業教育を実施する。
- イ 就業技術科には、職業に関する教科に基づく職業教育の系列として、流通・サービス系列と家政・福祉系列を設置する。
- ウ 流通・サービス系列には、ビルメンテナンスコースと流通・都市農園芸サービスコース、家政・福祉系列には、食品加工コースと介護・コミュニケーションコースを設置する。
- エ 各コースでは、企業の専門家等を活用して、専門的な職業指導を行う。
- オ 第一学年のトライアル実習(校内模擬実習)や就業体験(インターンシップ)、第二、三学年の産業現場等における実習などを行い、専門的な職業能力の育成を図るとともに、職能検査等を実施し、生徒の職業適性を的確に把握していく。
- カ キャリアガイダンスの時間では、実際の職場等を想定した現場での基礎的な表現能力や対人関係能力の向上を目指す。
- キ 企業就労に必要な学力や体力、社会性等を育成するため、基礎・発展・応用の各段階の各教科の指導内容・方法等を具体化し、指導していく。
- ク 二学期制を導入し、十分な授業時間数を確保する

- とともに、休業中には、各種検定対策等の充実を図る。
- ケ 生徒全員参加の委員会活動、部活動を実施し、組織の一員としての主体性、自主性、協調性の伸長を図る。
- コ 職業教育を主とする専門学科間の連携を強化し、就業体験先の情報交換や生徒指導の情報交換を行い、個に応じた指導の充実に努める。
- サ 東京2020レガシーでは、共生社会の実現に向けて、家庭や地域等と連携を図りながら、東京2020大会以降も障害者スポーツ等を通じた交流を取り組むなど、教育活動と関連付けて授業を工夫し、生徒の興味や関心を喚起する学習活動を引き続き計画的に進める。
- シ 保健体育、部活動を通して生徒の体力・運動能力を的確に把握するとともに、生徒の「体力の向上」「豊かな心」や「健やかな体」の育成を目指したスポーツ教育を推進する。
- ス 生活を明るく楽しいものにする態度と習慣を育て、生涯を通じて芸術活動を楽しむことができるよう、音楽・美術の授業や部活動において芸術教育の充実を図る。
- セ 本人及び保護者との十分な相談と同意に基づき、学校生活支援シートを作成し、個別指導計画の内容の充実を図る。また、進級や関係機関との連携のツールとして有効に活用する。
- ソ 個別指導計画の作成に当たっては、本人及び保護者の願いや的確な実態把握に基づく指導課題を踏まえ、個に応じて、できることを生かした具体的な指導目標を設定し、指導内容・方法や教材・教具等を工夫する。
- タ 個別指導計画に基づく指導の評価に当たっては、学習の習得状況や成長・発達の様子などについて、常に具体的かつ客観的な評価を行うことに努め、「授業記録」の取り方や整理の在り方を工夫する。

## 教育目標達成のための特色ある教育活動

- ・二学期制を導入し、授業時間数を十分に確保するとともに、個別指導計画における目標の設定と評価の時期をそろえて一体化し、年間指導計画とともに保護者、生徒に配布し、学習活動に見直しをもって臨めるようにする。
- ・普通教科の基本的な授業時間は、様々な教科等を設定できるよう、40分とする。また、専門教科の「流通・サービス」、「家政」、「福祉」の基本的な授業時間は90分とする。
- ・先進的で、より専門的な知識・技術等の習得を図るために民間の活力を導入し、特別専門講師を配置する。また、企業や労働関係機関等と連携して、産業現場等における実習先や雇用先の開拓を行うとともに、専門的な職業教育を展開し、就労後の職場定着に向けた進路指導（追指導）の充実に備える。
- ・ICT機器や情報通信ネットワーク等を効果的に活用し、分かりやすい授業を展開し、主体的に学習活動ができる教育環境を整える。
- ・職業に関する教科において、地域の人々をカフェに招いたり、高齢者施設へ出張サービスをしたりして、生徒の経験を広め、地域との交流を進める。
- ・外国語や外国文化に触れる機会や経験を重視した外国語教育及び国際理解教育の充実に図るために、外国語の授業を中心に、外国人英語教育補助員を活用した授業や英語絵本を活用したワークショップ、外国人に日本の伝統・文化を伝える交流活動、コミュニケーションの学習など全学年で実施する。



### 【普通教科】

企業就労に向けて、職業生活に必要な学力の伸長を図るため、国語、数学等の学習指導を段階的（基礎・発展・応用）に行う。

### 【職業に関する教科】

自分で選んだ「コースの学び」と「事務・情報処理の学習」で2つの専門性を身に付ける。

#### ○ビルメンテナンスコース

- ・オフィスビルのメンテナンスに関連する仕事について学ぶ。
- ・清掃等に関する知識、技能及び実践的な態度を学ぶ。
- ・オフィスビルを利用する方への挨拶や接し方などのマナーについて学ぶ。

#### ○流通・都市農園芸サービスコース

- ・流通や都市型の農園芸に関連する仕事について学ぶ。
- ・在庫管理や販売事務、栽培管理や作物加工等に関する知識、技能及び実践的な態度を学ぶ。
- ・お客様に対する挨拶や接し方などのマナーについて学ぶ。

#### ○食品加工コース

- ・カフェレストランでの調理、接客に関する仕事に就いて学ぶ。
- ・料理やスイーツの製造を通して、調理や食品衛生の実践的な技能を学ぶ。
- ・ホスピタリティのある接客サービスの知識や実践的な技能を学ぶ。

#### ○介護・コミュニケーションコース

- ・高齢者施設やホテル等での介護、接遇に関する仕事について学ぶ。
- ・介護・コミュニケーション、選択・清掃やハウスキューピング、接遇などの実践的な技能について学ぶ。
- ・高齢者やお客様への接し方、ホスピタリティについて学ぶ。

#### ○事務・情報処理の学習

- ・どの職種でも適用する事務の基本から応用までを学ぶ。

# 週 時 程

## 第1学年 時間割

	月	火	水	木	金
	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム
1	数学	職業に関する教科	保健 体育	職業に関する教科	情報
2	外国語				社会
3	音楽 /美術 (隔週)	職業に関する教科	職業	職業に関する教科	国語
4			キャリアガイダンスの時間		理科
	給食	給食	給食	給食	給食
5	家庭	職業に関する教科	国語	職業に関する教科	保健 体育
6			社会		
7	LHR	職業に関する教科	数学	職業に関する教科	日本の 伝統・ 文化
	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム

## 第2学年 時間割

	月	火	水	木	金
	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム
1	保健 体育	音楽 /美術 (隔週)	職業に関する教科	国語	職業に関する教科
2				理科 /社会	
3	数学	国語	職業に関する教科	職業	職業に関する教科
4	情報	外国語		キャリアガイダンスの時間	
	給食	給食	給食	給食	給食
5	職業に関する教科	家庭	職業に関する教科	数学	職業に関する教科
6				保健 体育	
7	職業に関する教科	LHR	職業に関する教科		職業に関する教科
	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム

## 第3学年 時間割

	月	火	水	木	金
	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム
1	職業	職業に関する教科	数学	職業に関する教科	国語
2	職業に関する教科		情報		数学
3	職業に関する教科	職業に関する教科	国語	職業に関する教科	保健
4			英語		
	給食	給食	給食	給食	給食
5	職業に関する教科	職業に関する教科	音楽 /美術 (隔週)	職業に関する教科	家庭
6					
7	職業に関する教科	職業に関する教科	キャリアガイダンスの時間	職業に関する教科	LHR
	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム

## 教科別授業コマ数

	1年	2年	3年
国 語	2	2	2
社 会	2	(1)	0
数 学	2	2	2
理 科	1	(1)	0
音 楽	(2)	(2)	(2)
美 術	(2)	(2)	(2)
保健体育	4	4	2
職 業	1	1	1
家 庭	2	2	2
外国語(英語)	1	1	1
情 報	1	1	1
職業に関する教科	14	17	20
日本の伝統・文化	1	0	0
キャリアガイダンスの時間	1	1	1
L H R	1	1	1
合計	35	35	35

# 写真で見る高等部就業技術科

## 行事



一期生 入学式



五期生 卒業式



十期生 入学式



新入生歓迎会



江戸・東京ウォーク



陸上競技記録会



宿泊防災訓練



地域清掃



3年生を送る会【合唱】



書初め



長崎修学旅行



成果発表会

## 職業に関する教科



介護・コミュニケーション



ビルメンテナンス



食品加工

部活動



ミュージカル部



音楽部



家庭科部



農園芸部



科学・パソコン部



美術部



バレーボール部



バスケットボール部



サッカー部



陸上競技部



卓球部

日本の伝統・文化【琴・そろばん】



学校設定教科



事務情報処理の学習



流通・都市農園芸

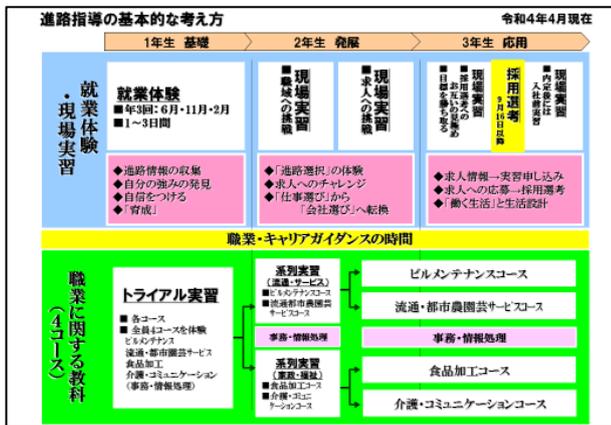


# 就労に向けての取組

就業技術科は、企業就労 100%を目指す専門学科として3年間の系統立てた進路指導を行っている。1年生は「就業体験」、2・3年生は「現場実習」として、実際の職場での経験や学習を積み重ねる。高校生の就職活動では、3年生での採用選考に向けて希望の1社に絞る「自己決定」を目指す。また、卒業後には継続教育として「本人講座」を月に1回、第3金曜日を基本に実施している。卒業生は546名となり、それぞれが社会人としてはばたいている。

## 1 進路学習

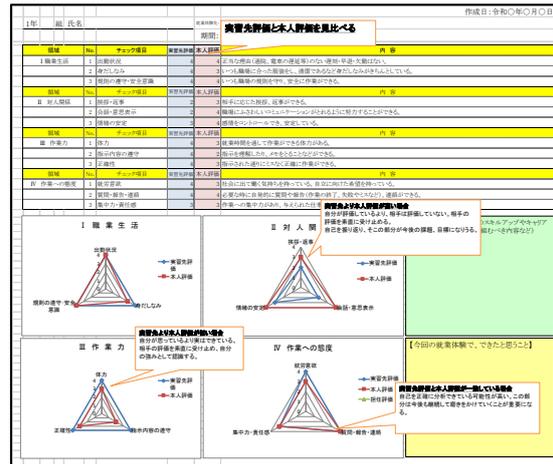
### (1) 1年生



「自己理解」を主とした学習に取り組む。進路学習のテーマは「知る」である。就業体験では、社会のルールやマナー、様々な職域の特徴について体験を通じて社会を肌身で感じて「知る」だけでなく、会社からの体験の振り返りや評価を通じて、自分の強みを「知る」ことを目標とする。3回の就業体験前は、入学前のニーズアセスメントによる興味・関心や本人の興味・関心のある職域で実施する。

就業体験後には、就業体験前と同じ項目で自己評価と就業体験先からの評価を合わせて、レーダーチャートで自己分析を行っていく。自分自身の感じ方や考え方だけでなく、他者からどう見られるかということも学習することで自己理解を深めていく。

同時期の校内の学習では、生徒は2年生以降に自分の強みを見極め、どう生かしていくかを考えるために、全員が全ての職域を経験する。



### (2) 2年生

「自己選択」を主とした学習に取り組む。進路学習のテーマは「選ぶ・選ばれる」である。2年生からは単なる「体験」ではなく「もしかするとここで働くかもしれない職場での実習」と考えながら現場実習の経験を積み重ねていく。また、実習期間や勤務時間、実習回数は生徒一人一人に合わせて設定していく。

**3年生**：最大1週間を目途に設定しています。ただし、貴事業所のご都合により、柔軟に対応いたします。

**【現場実習】** 令和4年4月11日(月)～令和5年3月2日(木)  
 ※ 就職活動として、採用選考につながるため、本人・事業所とお互いに見極める実習です。  
 ※ 内定後に、4月からスムーズに入社していけるように「入社前実習」を実施することもあります。

**2年生**：最大1週間を目途に設定しています。ただし、貴事業所のご都合により、柔軟に対応いたします。

**【現場実習】** 令和4年4月11日(月)～令和5年3月2日(木)  
 ※ 1年次体験した「職域」から1つを選択。「選んでチャレンジする」プロセスを学びます。  
 ※ その後、就職先になるかもしれない事業所にチャレンジします。

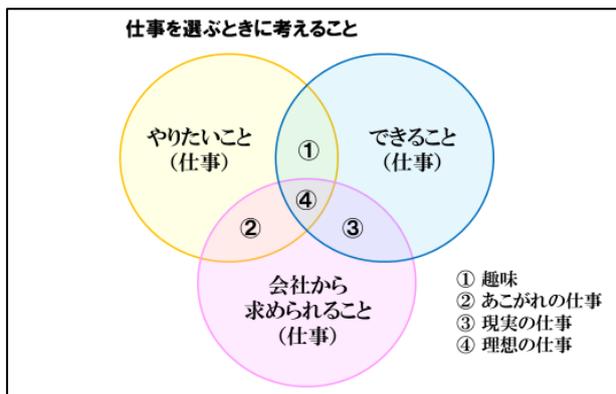
**1年生**：3日間以内で設定しています。協力事業所の支援をいただき、「育成」を主眼に取り組みます。

**【1期就業体験】** 令和4年6月14日(火)～6月16日(木)  
**【2期就業体験】** 令和4年11月8日(火)～11月10日(木)  
**【3期就業体験】** 令和5年2月21日(火)～2月24日(金)  
 ※ 上記の期間を基本にしていますが、貴事業所のご都合により、柔軟に対応いたします。  
 ※ 3回の就業体験をとおして、様々な職域を体験しながら、自信をつけ、自分の「強み」を発見します。

(令和4年度の例)

2年生の前半は、「自分の強みを生かして会社に貢献する」意識も高めていくため、1年生の経験や学び、自分の強みを生かした「仕事選び」に取り組んでいく。

同時期、校内では、「職業に関する教科」のコースの選択に向けて、学習していく。現場実習で自分の新たな強みを発見する生徒や自己肯定感を高めていく生徒も多くみられる。また2年生では、自分が「やりたい仕事」から「できる仕事」にも注目していくことや、できる仕事を増やしていくことにより、後の進路選択の幅が広がることについて学習を重ねる。



後半からは、いよいよ就職活動のスタートとなり、「会社選び」が始まる。それぞれの企業の採用の可能性を前提に、現場実習を進めていく。経験を通じて、自分が大事にしたい視点を整理していく。自分で選んだことに責任をもつために、理由を明確にすることも大切に行っている。

また、テーマにある「選ばれる」ことの意識を高めるため、「会社から求められること」について、繰り返し学習していく。

### (3) 3年生

「自己決定」を主とした学習に取り組む。進路学習のテーマは、「勝ち取る」「自分で決める」である。9月16日の採用選考解禁日以降に本格化する選考プロセスにおいて、自分で選択した会社の内定を勝ち取ること、及び生活を自分で決めていくことを目標としている。

夏休み前には、応募先としたい企業を1社に絞り込めることを目指す。その際、本人の意志を基に進路面談が実施され、一人一人の希望や方向性を確認していく。

自分で進路を決めるまでには、いろいろな人と相談していく過程も大切にしている。担任や副担任、部活動の顧問、コース担当の教員、進路専任、保護者から様々な考え方があることも学ぶ。生徒は求人票の内容や現場実習を通して、採用選考への応募の意志を固めていく。

毎年8月には、管轄であるハローワーク池袋で就職登録を行う。登録に向けて、自分の就職希望の考えをまとめ、希望を伝えられるようにする。この頃には、ほとんどの生徒たちはそれまでの学びや実習経験を生かして自分の考えをまとめている。

年度後半からは、主として卒業後の社会人生活準備のための学習に取り組む。毎年10月には、校内で「就労支援機関連絡会」を開催する。「就労支援機関連絡会」では、生徒が居住する各自治体の就労支援センターの

協力のもと、卒業後にお世話になる担当の方々との顔合わせを行う。「就労支援機関連絡会」は、就職後の生活を見越したライフキャリアについて具体的かつ現実的な学習となる。

内定後には各企業により「入社前実習」や「入社前ミーティング」を実施して、入社までに生徒と企業の相互理解を深める機会ももつ。

## 2 進路先

企業就労した卒業生は、現在523名となる。特例子会社への就職者は全体の3割程度である。就労先企業はのべ約260社となる。

東京都立志村学園 高等部就業技術科  
**卒業生進路状況**

令和4年4月1日現在

職種	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
事務	26	39	35	40	40	39	28
製造	4	0	1	2	3	3	3
物流	9	4	6	5	6	2	3
小売販売・接客	5	7	7	2	7	8	8
飲食厨房、調理・食品	9	8	10	12	10	5	8
清掃	18	16	11	8	10	16	12
衛生福祉サービス	4	3	4	2	2	3	6
その他(福祉施設利用等)	3	1	3	5	2	2	11
計(就労者/卒業生数)	75/78	77/78	74/77	71/76	78/80	76/78	68/79
就労率	96.2%	98.7%	96.1%	93.4%	97.5%	97.4%	86.1%

職域別では、事務系での就労が半数前後を占める。新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるリモートワーク形式での勤務や、清掃業において新たに消毒作業等が加わるなど、勤務の仕方や業務内容が大きく変化をしている。また中には、就労後に社内プロジェクトによる業務の拡大や本人の仕事の幅が広がることにより、担当業務が変更になったり、他部署に異動したりするケースも出ている。

本校では、在学中に専門とするコースでの学びに加え、3年間、事務・情報処理の学習を積み重ねることにより、社会の変化に対応しながら新しいワークキャリアステージに臨む力を身に付けている。

また、同じ職域の中でキャリアを積み、例えば「初任者研修」「簿記検定」など、業務上必要となる資格を取得する卒業生もいる。就労先となった各事業所の支援や協力を得ながら志村学園の卒業生の可能性も広がりつつある。それは、在校生の就業体験先や現場実習先、そして就職先としての道も拓くことにつながっている。

### 3 卒業後支援

早いもので、1期生は今年度で社会人となって7年目、25歳となる。年々、卒業生が必要とする支援は多様化してきている。働き続けるための支援、生活面や人間関係、各事業所からの相談等々、卒業後3年は出身校として支援を行ってきている。また、3年を経過していく中で、少しずつ卒業生が登録している就労支援センターに引き継ぎを行っていく。卒業生たちが今後変化していくキャリアにより、相談できるところを増やすことも大切にしている。各就労先に、就労支援センターと共に訪問する機会を活用し、就労先と卒業生の情報を共有し、連携を深めていく。また、今年度より東京都就労定着支援事業として、本校に定着支援担当員が1名配属された。今後は教員と共に、より効果的な支援を行うことを目指していく。

1期生が卒業して以来、継続教育として「本人講座」を年12回実施している。従来は、自由な来校形式で継続学習として、「ストレスマネジメント」や「障害者基礎年金」「金銭の扱い」など社会人として必要な学びと共に、卒業生同士の親睦や個々の状況把握、相談などに対応していた。コロナ禍で一時期は休講せざるをえなかった本人講座は、現在は集合とオンラインを併用したハイブリッド形式で行っている。この方式により、卒業生全期を対象とした本人講座が可能となった。来校できる人数は制限があるものの、毎回オンラインを含めると多数の卒業生が参加している。



参加については、本校のホームページ「卒業生のページ」で時間を問わず申し込みが行えるようになっている。「何か相談したい」と卒業生が希望したときの連絡も、同様の方法を活用できるようになっている。

### 4 就労定着

順調に社会で成長していく卒業生ではあるが、大なり小なりの悩みには直面している。しかし、全国的に高卒の定着率が就職後3年で6割と言われている中、3年間での定着率が9割前後で推移している。その背景には、就労先の理解や支援による支えと共に、本校の進路学習が目指す「自己決定」が、働き続けるためのモチベーションとなっていると考える。

10年目の今、卒業生が在学時代からの学びを社会で生きていく力につなげ、着実に成果を発揮していくことを今後も期待している。



# 職業に関する教科

## 「ビルメンテナンスコース」

### 【概要】

ビルメンテナンスコースにおける学習は、日常清掃、定期清掃、受注清掃の3つに分けて行っている。学ぶべき必要なサイクルとしてお客様、受注、清掃作業、納品の流れがあり、お客様（地域施設等）からのオーダーやリクエスト、指示に基づいて清掃作業をして、約束の日までに仕上げる学びを取り入れている。

また、新型コロナウイルス感染症対策への取り組みとして校内の消毒作業も担っている。授業内実習として、近隣施設の清掃作業も行っている。授業では、ICT機器を活用して、清掃資機材の管理や校内における清掃業務の取り組みについて管理をしている。開校以来、特別専門講師から指導・助言をいただいている。



### 【学習】

#### (1) 一年次（基礎学習）※全員必修

一年次では、以下の基本的な資機材の使い方を学習する。

- ①タオルの使い方として、たたみ方や絞り方、テーブルの拭き方を学習する。
- ②自在ぼうきの使い方として、持ち方や練習用コートでの掃き方などの作業手順を学習する。
- ③ダストクロスモップの使い方として、クロスの付け方や持ち方、練習用コートでの掃き方などの作業手順を学習する。
- ④房糸モップの使い方として、房糸の洗いや絞り方、モップの持ち方や振り方を学習する。
- ⑤ウインドスクイジーの使い方として、持ち方や引き方、ガラス面の水拭きの仕方（塗布の仕方）を学習する。

#### (2) 二年次（応用学習）系列選択者

二年次では、応用学習として様々な清掃資機材を使用して普通教室や特別教室のトータル清掃を行っている。また、校内の消毒作業やトイレ消毒についても学習を行い、感染症対策として行う消毒作業の学習を行っている。

#### (3) 三年次（発展学習）コース選択者

三年次では、一、二年次の発展学習としてリーダーを中心に受注作業を責任もって行うことや効率良く作業することを目標としている。また、特別専門講師と連携して、会社で必要な知識や態度、顧客意識等についても学んでいる。ヒヤリハット事例を取り上げ、大きな事故やけがにつながらないよう安全第一、安全管理に努める方法を身に付けている。



### 【指導の特色】

ビルメンテナンスコースでは、清掃作業を評価する際、清掃の技術だけでなく、作業者の働く姿勢や態度も重要な要素であると考えている。この考えに基づき、清掃技術を指導するとともに働くために必要な就労意欲や態度について指導することを大切にしている。また生徒の混乱を避けるため、清掃方法は会社によって異なること、現場実習や入社後に各会社の清掃方法を学ぶことを事前に指導している。働くために必要な姿勢や態度は、本校を卒業するときには身に付けられるように指導している。

三年次では、生徒は受注清掃を経験し、期日を守ることや品質を向上させること、また、授業内実習においては、外部のお客様とのやり取りから顧客意識が芽生えるなど品質管理の意識も強くなっていく。他にも同時並行での受注業務も受けながら、分業分担を考えながらチームプレイを学んでいく。一年次から学びを続けてきた成果として三年次では、自然体で作業に取り組めるようになる。10年経った今でも校舎がきれいだと説明会等で来校される方からの評価は高い。

生徒たちは、この先、本校に入学してくる生徒たちのためにも「学び舎」の美しさを増し、建物を長持ちさせる視点をもって清掃作業に取り組んでいる。この生徒の気持ちを、今後も大切にしていきたい。



# 「流通・都市農園芸サービスコース」

## <流通サービス>

### 【概要】

流通は、物流と商流部門の二部門で構成され、物流部門では授業内実習として、毎週一回物流センターでの大口ピッキングや、端末を使用しての小口ピッキングを行っている。商流部門では授業内実習として毎週一回スーパーマーケット3店舗でお客様対応や商品補充、前陳作業を行っている。また、PCを活用し、依頼されたアンケートを集約しグラフ化することや、パワーポイントを使用して校内のプレゼン資料の作成などを行っている。開校以来、特別専門講師から指導・助言を受けている。

### 【学習】

#### (1) 一年次（基礎学習）※全員必修

「流通」の学習では、流通の基礎や物流棟の学習を通して仕事に対する姿勢や基礎技能を学ばせる。

#### (2) 二年次（応用学習）系列選択者

一年生で学習した事の積み上げとして、校内外の委託業務を通して、仲間で作業を行うこと、仲間と作業を行う上で必要なコミュニケーションの学習、物流会社での授業内実習を行い、三年次につながる学習をしている。

#### (3) 三年次（発展学習）コース選択者

一・二年の発展として、リーダーを中心に生徒が受注されたものを納品まで責任をもって行うことを目標としている。指示書通りに商品を完成させるための作業工程、役割分担、チェック体制、納期遵守を生徒が考え、コミュニケーションを取りながら作業をすることとしている。

### 【指導の特色】

「流通」コースでは「話す」「聞く」「考えること」を大切に、生徒自らがコミュニケーションを取り、考えて課題を解決する。授業内実習ごとにアセスメントシートを記入し、自分の課題と振り返り、そして、グループの課題と振り返りを行い、次回の実習につなげている。



## <都市農園芸サービス>

### 【概要】

「都市農園芸」の学習では、(1) 植物栽培や緑化管理の知識と技術、(2) 職業人として求められる倫理観とコミュニケーション、(3) 主体的かつ協働的に取り組む態度の習得を目標として取り組んでいる。野菜・草花・観葉植物の栽培や校内緑化の作業を通して、豊かな心を育てつつ生徒間で協力して取り組ませている。

### 【学習】

#### (1) 一年次（基礎学習）※全員必修

##### ① 農園管理

観葉植物（オリヅルラン、ハラン、フィロデンドロン）・草花（マリーゴールド、サルビア、センニチコウ、ビオラ）・栽培資材（セイヨウススキ）の管理

##### ② 校内緑化（グラウンド・屋上庭園）の管理

#### (2) 二年次（応用学習）※流通系列選択者のみ

##### ① 栽培植物の管理

野菜（ミニトマト、ナス、ピーマン、エダマメ、サトイモ、ダイコン、カブ、ホウレンソウ、コマツナ）・草花（マリーゴールド、サルビア、センニチコウ、クッフェア、テランセラ、ビオラ）・樹木（ガクアジサイ）

##### ② 校内緑化（花壇・緑化樹木）の管理

### 【指導の特色】

「都市農園芸」では、植物の栽培や管理を通じて生理・生態の基礎・基本を学ぶと共に、周囲の生徒と協力して作業に取り組む姿勢を養うよう指導している。また、身だしなみや持ち物などの自己管理も指導し、職業人としての自覚と自立を促している。令和元年度からは、校内での野菜圃場や花壇面積の整備や拡張を実習で行っており、野菜の収量は約 60%、花壇面積は約 30%増やすことができた。令和4年度から1年生は「スマート・スクール端末」の導入を受け、Microsoft Teams を活用した「実習日誌の見本」を掲示することや「調べ学習」に活用している。



## 「介護・コミュニケーションコース」

### 【概要】

「介護」と「ホテル」に関連した学習をしている。

「介護」では、直接介助や周辺業務について学び、介護技能、適切なコミュニケーションの取り方や洗濯・清掃などの技能を身に付けることを目指している。

「ホテル」では、ハウスキーピングやホスピタリティについて学び、ベッドメイク、清掃・消毒や接客などの技能を身に付けることを目指している。

初年度より介護現場の特別専門講師、ホテル現場の特別専門講師から指導・助言を受けている。

### 【学習】

#### (1) 一年次（基礎学習）※全員必修

「介護」では、高齢者体験、視覚障害者体験を通して介護の必要な方の心や身体について理解する。また介護予防としてのレクリエーション活動を学ぶ。清拭洗顔や車いす介助、着替え介助等の介助技能を身に付ける。シーツ交換も繰り返し練習し、技術の習得を目指す。

「ホテル」では、ホスピタリティに根ざした身だしなみの整え方、傾斜30度の挨拶の仕方を学ぶ。ベッドメイク、アメニティ補充、消毒・清掃の技能を身に付ける。

#### (2) 二年次（応用学習）

「介護」では、認知症サポーター養成講座を受講し、受講証明のオレンジリングを取得する。初級、中級、上級の検定方式でリネン交換の原状復帰練習（ベッド上に置いてある眼鏡や衣類等の物品を、リネン交換後に元の位置に戻す）に取り組む。周辺業務としては全校受注の洗濯、洗面台清掃の手順を身に付ける。

「ホテル」では、バスタイレ清掃の技能を身に付け、授業内実習として実際のホテルでハウスキーピングの実習を行う。

#### (3) 三年次（発展学習）

一・二年次で学んだ内容を、質の向上とスピードを追求していく。

更に、「介護」では、初級、中級、上級の検定方式で「誰でもトイレ」の消毒・清掃の技能を身に付ける。授業内実習として高齢者施設で、レクリエーション活動、傾聴的な会話、御利用者の私物が置いてあるベッドでのリネン交換、食事で汚れた車いすの清掃、フロア一清

掃などの実習に取り組む。毎月1回来校していただき、交流していたが、新型コロナウイルス感染症の流行以降、季節ごとの壁飾りやレクリエーション動画を作成し、高齢者施設に届け、活用していただいたり、オンラインで一緒に歌を歌ったりする活動も行っている。

「ホテル」の接客の学びを生かし、学科説明会の来校者のアテンドを行う。

#### (4) 3 学年共通

各学年で介護支援ロボット装着体験を行い、最新の科学的な介護に触れる機会としている。

### 【指導の特色】

体験的な学習を通して「相手の立場になって考える」「より良くするよう常に工夫する」「チームで活動し、得意なことに積極的に取り組み、苦手なことは仲間と協力し、助け合う」等の力を養えるよう指導している。

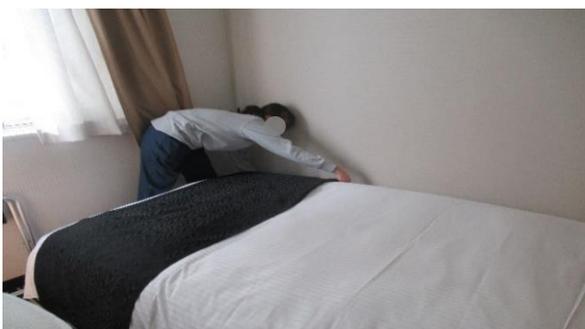
実際の指導では、生徒同士の話し合いの場面を多く設定し、主体的に繰り返し取り組み、自ら改善していく学習に重点を置いている。また、意欲的に技能の向上に取り組めるように、検定方式を採っている。

#### 《高齢者とのレクリエーション活動》



レクリエーション活動では、カリキュラムマネジメントとして音楽科の学びを生かし、キーボード演奏を取り入れている。

#### 《ホテル現場での授業内実習》



# 「食品加工コース」

## 【概要】



食品加工コースは、一年次から「厨房」と「接客」の両方を学ぶ。三年次で、校内に設置されているレストラン「Café de Novice」(カフェ・ド・ノヴィス)で、実際にお客様をお迎えし、おもてなしをすることを目標にして以下の学びを積み重ねている。

また、開校以来、厨房と接客それぞれで、特別専門講師から専門的、実践的な助言と指導をいただいている。

## 【学習】

### (1) 一年次 (基礎学習) ※全員必修

お客様のための料理や接客であることを意識できるように安全、衛生、身だしなみ、マナーの基本を学ぶ。

#### <厨房>

- ・コックコートの着方、身だしなみ、衛生
- ・計量や様々な調理器具の使い方
- ・基本的な包丁の扱い、切り方

#### <接客>

- ・接客にふさわしい身だしなみ、衛生
- ・接客マナーと基本の用語

### (2) 二年次 (応用学習)

コース料理の調理技術とサービスについて基本から学び、まとめとして校内や保護者を対象としたプレ・オープンを行う。

#### <厨房>

- ・衛生、安全について
- ・様々な食材の扱い方、切り方
- ・焼く、煮る、炒める等の調理

#### <接客>

- ・接客マナー
- ・コース料理の提供のロールプレイ
- ・銀食器やグラスの磨き方、扱い方

### (3) 三年次 (発展学習)

レストラン「Café de Novice」の運営や校内の営業などの実践が中心となる。

#### <厨房>

- ・コース料理の調理 (前菜からデザートまで)
- ・カフェオープンや焼菓子販売に向けた製菓
- ・衛生的な施設管理

#### <接客>

- ・コース料理の提供 (前菜からデザートまで)
- ・来校されたお客様へのコーヒーサービス
- ・校内ワゴンサービス
- ・予約の受付等、運營業務
- ・衛生的な施設管理や店舗の装飾

## 【指導の特色】

食品加工や接客の技術を身に付けるだけでなく、顧客意識やおもてなしの心を修得するために、「衛生的で安心、安全である。」「幅広い層のお客様と接する仕事である。」「スピード感のある丁寧で正確な仕事をする。」「お客様、仲間とのコミュニケーションを大切にする。」ことを意識して取り組んでいる。

レストラン営業では、盛り付けなどの見た目にもこだわり、また、お客様に心地よい食事の時間を過ごしていただくためのマナーを身に付けられるよ



うにしている。三年次になると、運営について生徒が意見を出し、取り入れていくことで、レストラン運営に参加している実感や、やりがいを実感できることを大切にしている。実際に、レストランオープンでお客様をお迎えするごとに、生徒の働く意欲が高まっている。

この10年間のレストラン営業を通して、「Café de Novice」のファンになってくださっている地域の方も多く、毎月御来店いただく方や、ホームページで営業の情報を得て、お気に入りのデザートを食べに来られる方もいる。

これからも本校の食品加工コースを支えてくださっている多くの方に感謝する気持ちが、生徒の成長を支える力となっている。レストランの営業を通して、お客様に喜んでいただくための努力を続けることが、将来の就労につながっている。

## 「事務・情報処理の学習」

### 【概要】

事務・情報処理の学習では、専門的な事務・情報処理関係業務への就職はもとより、どの職種でも通用する事務・情報処理業務を身に付けることを念頭に三年間、学習に取り組んでいる。また、職業人として必要なビジネスマナーや高い専門性を身に付けるために開校より特別専門講師からの指導・助言を受けている。

### 【学習】

#### (1) 一年次 (基礎学習)

クラスごとにローテーションで事務・情報処理の基本について学習している。就業体験を意識したビジネスマナーについて、特別専門講師から専門的な指導を受けている。どの職種・業務に従事するにしても、事務作業は必要とされるため、書類や事務用品の基本的な扱い方を学んでいる。

#### (2) 二年次 (応用学習)

前期では、所属する系列ごとにローテーションで事務・情報処理の学習をしている。主に事務用品・事務機器を使用した「事務補助作業」と、データ入力、名刺作成などのパソコンを使用した「事務PC」に分かれて学習を行うことでより専門的な知識を学んでいる。

後期には、各コースに分かれ、コースの特性に合わせた事務・情報処理の学習を行う。三年時の受注業務を想定して、事務・情報処理能力の育成をするなど発展的な学習をする。

#### (3) 三年次 (発展学習)

学校内外からの受注作業を中心に学習を行うことで卒業後の企業就労を意識した活動となっている。毎週各コースの半数が事務・情報処理の学習を行うことで年間を通じて事務・情報処理能力の育成をする。



### 【指導の特色】

どのコースに所属しても、事務・情報処理に関する専門的な知識と技術を三年間学ぶことで、所属コースの専門性と事務・情報処理の二つの専門性を身に付け卒業することができる。二つの専門性を身に付けることで変化する社会情勢に対応し、会社のニーズに応えられる人材を育成することができる。

事務・情報処理を学習する二つの専用の実習室があり、「オフィス2」では、20台のパソコンを使用してデータ入力や名刺作成を、「オフィス3」では、パソコンの他に製本機や丁合機等の事務機器を使用し実際の職場をイメージした学習に取り組むことができる。

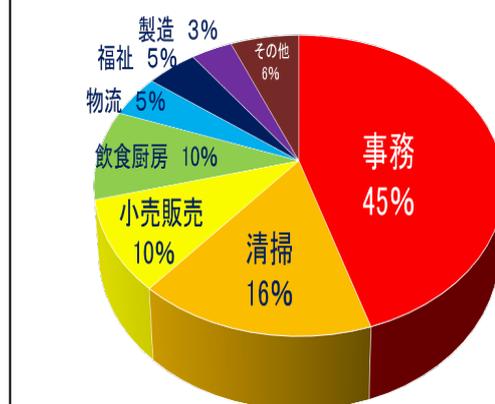
#### ◎身に付けさせたいこと

- 事務用品・事務機器の知識、使用方法
- オフィスにおけるビジネスマナー
- 報告・連絡・相談を中心とした、コミュニケーション力

#### ◎成果

開校より、事務・情報処理業務へ就労を希望する生徒は多く、約半数が事務系の職種へ就労している。三年間それぞれのコースと合わせて継続的に学習することがこの就労率につながっている。また、二つの専門性を身に付けることで、事務以外の就労をした生徒においても、それぞれの職場で学んだ技術を生かしている。

卒業生進路状況 (令和元年～令和3年)



## フォーSの会の歩み

フォーSの会 会長 岩崎 高

### 【フォーSの会の誕生】

平成25年4月1日に生徒全員が企業就労を目指す都立志村学園高等部就業技術科が開校し、その年度が終わる頃の平成26年3月19日にPTAではなく、保護者同士の親睦を目的として設立を企画、会則等具体的な準備が始まりました。そして、翌年の平成27年3月19日にフォーSの会は、誕生しました。

### 【『フォーS』という名称について】

「FOR」 何々のために

★「For Student」 生徒のための保護者の会

★「For 志村学園」 志村学園のために

「4 (フォー)」 「4 S(よんえす)」 整理・整頓・清潔・清掃

★志村学園の校章に表されている、積み重なった4つの「S」での『フォーS』

★志村学園に在学する全児童・生徒を表す、志村学園が大切にしている4S

### 【フォーSの会の活動】

『フォーSの会』の目的は、保護者同士のつながりを大切にしたいという思いから、懇親会等で情報交換したり、時には悩みを言ったりと楽しみながら活動しております。

コロナ前までは学年やクラスごとの茶話会、懇談会、保護者親睦会を開催していました。

学校の進路指導部と連携・協力して、学習会の開催「企業の方のお話を聞く会」、「自立に向けて～障害基礎年金を含む年金基礎知識の学習会」等々を対面で開催してきましたが、コロナ以降は、企業による勉強会は、オンラインを利用できるように企業への確認、許可を得て、各家庭に連絡、申し込みを頂いて、各家庭での視聴を行っております。

本校では卒業後、月に一度「本人講座」をリモートで開催していただいております。コロナ前は学校に集まって開催していたそうですが、コロナ禍は、毎回オンラインと来校のハイブリット方式で開催されてきました。今後、同期の保護者同士の親睦会や学習会、成人式後の見守り応援も学園と連携して再開して参ります。

